

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570101119		
法人名	有限会社 浅善		
事業所名	グループホーム出愛荘		
所在地	滋賀県大津市際川4-13-6		
自己評価作成日	令和5(2023)年7月14日	評価結果市町村受理日	令和5(2023)年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 滋賀県介護福祉士会		
所在地	滋賀県草津市笠山七丁目8番138号 滋賀県立長寿社会福祉センター内		
訪問調査日	令和5(2023)年9月11日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・事業開設以前より事業者代表が自治会役員で地域社会と関わり、また15年間にわたって家族の介護にもあつた経験を通じ、「施設」ではなく高齢者が最期まで自然体で暮らせるような「住まい」を目指しております。また職員一人ひとりの個性を尊重し「自然体」のケアで利用者、ご家族、地域の方と人間関係を築いていきたいです  
 ・出愛荘近所の利用者様が多く、ご家族様とケアのことを相談しながら一緒に寄り添っていける関係作りがある  
 ・利用者、ひとりひとりの気持ちを大切に寄り添い職員と利用者、ご家族、地域の方と協力し、日々楽しく笑顔の絶えない家庭的な環境づくりを目指していきたいです  
 ・新型コロナの影響で利用者、家族、地域の方これまでの築いてきた関係性は継続の上、対面における関わりを再開していきたいです。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム出愛荘は、地域の住宅の中にとけ込んだ、たた住まいである。開所当時より受け継いできた「人と共に」「自然と共に」「地域と共に」を基本理念として利用者・家族・地域との関係づくりに努めている。入所期間が長く、利用者の高齢化により身体的にも重度化し車いす使用や食事等の全面介助が必要な方もみられるが、職員は、一人ひとりの言葉・動作・表情から思いを汲み取り笑顔絶やさない支援に努めている。玄関を入ると、可愛い、お地藏様や季節ごとに模様替えされる壁飾り(訪問時は涼しげな風鈴)が面会者や利用者を和ませる工夫が継続して行われている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人と共に」「自然と共に」「地域と共に」をスローガンとして毎朝礼時に読み上げ意識付けをしている	毎日、基本理念を確認し、意識づけをしてケアの実践に努めている。新人職員には、管理者が理念の意義を丁寧に説明して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年は新型コロナウイルス感染症の影響もあり電話や書面にての報告が主であったが、今年度より自治会防災会議参加等の交流回数が増えています。	コロナ禍の影響、利用者の体力低下等で、日常的な外出が出来にくいのが現状で日常的な交流は出来ていないが、地域の参加可能な催しをえらび交流したいと考えている。職員は、自治会の会議等に参加してつながりを継続している	利用者の身体状況により交流が困難な時期もありますが、事業所が地域の一員としてつながりをもち発信されることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の理解、支援の方法のほかに、活用がないか検討しているが、実施までには至っていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度は新型コロナの影響で書面報告中心でしたが、今年度より出席会議を再開して様々なご意見をいただくようにしています。	コロナ感染状況を鑑みて書面・参集での運営推進会議が定期的に行われ、事業所の現況や取り組みの報告・参加メンバーとの情報・意見交換がされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	大津市健康保険部長寿政策課を主として地域包括センター等も含めて、利用者の介護保険更新申請時や資料提出等折にふれ連携に努めている。	市担当者には、事業所の現況や取り組みを伝え意見交換をしている。必要時はいつでも相談でき協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会の定期的開催、定期研修の実施。オムツ内の陰部触り、転倒事故ケースより転倒防止のためのケア対応等々が身体拘束にならないように気をつけるよう意識付けにもしています。	「身体拘束をしないケア」についての勉強会を定期的に行っている。勉強会では、具体的なケースを検討しながら、拘束をしないケアの確認や意識づけをして身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期研修において虐待防止についても取り組み、また虐待防止委員会も実施して虐待防止の意識付けを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は現在出愛荘利用者1名の方が制度利用しているため、関係者の方と関わる機会は多々ある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の場合必ずご家族に来ていただき、ご理解を得た上で話をすすめるようにしている。改定の場合は文書、電話両方にて確認、説明をさせていただきようとしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	R3年度の外部評価調査員のご意見も参考にし、面会時や電話、病院の付き添い時に意見や、要望を伺っている。出された意見、要望等は、職員会議で検討し反映できるようにしています。	、家族等には制限付きの面会ではあるが、来訪時や電話・訪問して書類を手渡し時、意見や要望を意識的に聞いている。出された意見・要望等は職員間で検討し反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	役職会議、ケア会議、その他の会議に代表者に意見や考えを聞いてもらう場を設けていただき反映するように努めている。会議まで待てないものなどは即日、管理者に確認を行ない実行、再検討に取り組んでいる	会議では、勤務経験年数に関わらず、意見や提案はしやすい。職員同志の関係は良く個別にも管理者に提案する機会があると職員より聞き取る。意見、提案は検討し反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月のケア会議に代表者も出席しているので確認の上、整備につとめている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員自己意識と職技能力高めるため、事業所としての年度目標と、現場職員から提示される目標を設定してトレーニングしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の介護事業所やお世話になっている医療関係事業所と情報交換や、相談対応を継続しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前は本人や日頃つながりのある方々(家族、介護サービス関係者など)直接お会いしてお話を伺い、利用開始後はそれを基に本人の何気ない会話より言葉、行動から本人の思いに寄り添うよう、笑いあえるように関係づくりに心を掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等は利用者本人を知ってもらいたいという思いと受け入れる施設のあり方を知りたいという思いがあることを念頭に気持ちを寄り添うように関わっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の方と面談で当事業所を選んだ理由や、一番何を求めているのかを確認して対応に努めている。ケア対応で必要上、初期面接時より権利擁護事業所や医療的サービスも紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	数々の経験のお持ちの方々なので「親」、「家族」、「人生の先輩」、「必要としている存在」、「持ちつ持たれつの関係」と各職員それぞれの気持ちで利用者との関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族等とのひとときの時間を大切に見守りながらも近日の報告をおたよりで報告したりして関係を構築するようにつとめている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため自粛が徐々に減りましたので、友人が訪ねてきて居室で過ごしたり、友人に合うために外出、自治会行事等の参加再開を目指していきます。	一部制限付きの面会であるが、再開している。コロナ禍であったが家族と法事で外出をされた方もいる。馴染みの場所へのドライブや馴染みの友人・知人と関係継続を模索している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の進行、身体状況で言葉が出なくなった方が多くなるも、会話を「聞く」ことはあり、その拾い話に笑顔の表情があり、現在共通して「歌」が利用者で共同作業できるので関係支援を行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後もご家族様は事業所近所の在住者が多いのでばったり再会することあり、お互いの近況報告もすれば、事業所ボランティア活動や、古紙などのご寄付もいただくこともあり感謝しています。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴から思いを理解し、可能な限り本人の希望に沿うよう努めている。新しい情報、気づきがあれば都度追加し、ケア会議、ユニット会議で情報を共有している。	入居前に本人・家族に暮らしの意向や思いを聴いて、また日々の関わりの中での気づき・言葉や表情から本人の思いを汲み取り把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時面接での情報、入居後も利用者本人、ご家族もあれば、面会に来られたお知り合いの方や、馴染みのあったご近所さんより伺うこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各個人の表情、しぐさ、会話にも注意を払い具体的に記録に記載し、引継ぎ等の記録を確認、それをもとにユニット会議にて現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議にてケアプラン以外の項目についても話し合いその実施、検討内容がプラン化することもある。ご家族様とも訪問時にプラン内容の方向性を確認したり、主治医、訪問看護、リハビリ師、マッサージ師にも相談して反映するように取り組んでいる。	本人・家族等には、日頃からのかかわりの中で思いや希望を聴き取り、必要な関係者と意見交換して介護計画を作成している。定期的にユニット会議でカンファレンスし臨機応変に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の細かな変化も記録して、引継ぎに間違いがないよう伝えまわしていくチェック管理もして各職員の意見参考にして会議等でまとめ、その都度対応を変化させ介護計画の見直しにいかしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の身体状況や家族の要望をもとに行政関係者、医療関係者、訪問マッサージ、福祉用具、地域文化交流サービスと連携協力があって支援につながるケースもあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昨年度まで新型コロナの影響で利用者と外部の方たちとの接触控えも、今年度より再開活動にむけ、地域資源は恵まれているので、支援の発展につなげていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在お世話になっている協力病院は臨時往診も応じてくれて大変感謝しております。状況により特別指示書による医療保険の訪問看護利用もスムーズに進めていただいています。	契約時に希望を聞き、ほぼ事業所の協力病院に通院や往診にて健康管理されている。通院は職員が同行し診療情報を家族に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医系列の訪問看護ステーションの看護師に来ていただいており、適切なアドバイス、対応の仕方をいただいて参考にしていく。また訪看より主治医との確認調整もしてくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(新型コロナ感染症の影響あっても)様々な病気による入院時に第三者の面会できるなら、コロナ以前のように実際に面会に赴き、入院病院の関係者との連絡のやり取りや、ご家族様に確認の連絡を実施しながら配慮していきたいです。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より意思確認を伺う書類を用意して把握している。命に関わる事項のため容態変化時に再確認、意思変更もある時はその都度変更している。	重度化の兆しがある場合は、本人・家族の意向を随時確認し医療関係者・職員が連携し体制を整え支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	動脈血酸素飽和度測定値の導入利用で利用者の呼吸が苦しそうな時の検査で初期対応が迅速にできるようになってきたが、AED装置もあるが、呼吸停止、心停止による対応は実践場面が少なくその場を経験している職員は少ないのが課題である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震、台風天候により出愛荘での身近な災害は停電と断水被害と想定しています。そこに感染症も含めたものとなると課題もあります。今年度より地域の方達との防災会議出席して協力体制を整えていきたいです。	定期的に避難訓練が実施されている。非常用物品の備えがある。歩行での避難が困難な利用者も多く課題もある。	地域との防災会議でより良い避難方法や減災について協力関係が深まるといいですね。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の程度、性格、病状を考えその人に合うであろう言葉使いや対応に心掛けている。またこちらの表情、態度でも人それぞれ感じ方が異なるので配慮も必要と感じる	家族の希望で愛称で呼称している入居者以外は、基本、苗字に「さん」付けで呼称している。「～しましょうか?」「～されますか?」と本人の意思を確認しケアがされている。個人情報(写真含む)の管理は徹底されている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者同士の会話で見ついたり、自分の言葉で表すのが難しい方には過去の趣向からこちらで推測して普段使っている言葉遣いで伝えて働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全ての利用者に全てのことができるわけではないので歯がゆい思いを職員は持ちつつも、「出来る限りのことは…」と日々努めている。重度の方が多くなっている現状なので難しくなっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で好んで服を選べない方が大半なので、職員より身だしなみは気をつけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に料理作れなくても味見をしてもらうなど参加してもらったり、何を今作っているかを利用者に話しながら食事への関心を持ってもらうようにも心掛けている。現状大半の方達がこの状態です。	それぞれの形態に合わせた、調理済みメニューを温めて提供している。炊飯・みそ汁はフロアキッチンで作っている。フロアからキッチンがよく見え、炊飯の匂いも届く。車いす利用者が多く、作業に参加できないが、味見等で食欲を喚起している。月に3~4回は手作りメニューを提供し楽しんでもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	大半の方はしっかりと食事、水分摂れているが、食べ方に特徴ある方にはそのリズム、食事形態、量を把握して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者全員に訪問歯科による対応も行ない、職員の口腔ケアの意識付けを強化している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状態、時間を記録にしてパターンを確認して時間を見計らってトイレ誘導を行っている対応で失禁率を少なくしているが、こちらからの声掛けにて対応していただく過程である。	トイレサインを見逃さないように個別誘導している。トイレサインを表出されない方には、排泄パターンを把握し、定時誘導している。可能な限りトイレ誘導することでパットの交換頻度が減っている方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日一回は飲み物としてヨーグルトを飲んでもらい、主に水分をしっかり摂ってもらうことで予防対応に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が楽しめるように入浴時にうたを歌ったり、談笑、身の上話の相談等の対応をしています。現在血圧、体温測定で通常より変化ある場合は見送るなどしている。目安として3~4日に1回の入浴対応である	同性介助・2人介助等、個人の要望・特性を鑑み、入浴パターンは対応している。1階と2階の2箇所にある浴室の1階浴室にはリフトが設置され、安全に入浴出来る配慮がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	主に利用者まかせの自由なところもあるが、重度の方には時間おきに一旦ベット横にさせて体を休ませる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者がどのような薬を飲んでいるかファイルがあり、いつ服薬したかの時間も記録にする方もいて慎重に対応を心掛けている。急変時の追加薬、頓服薬には主治医、かかりつけ薬局にも相談対応を心がけるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	トイレ行く目的過程で外気浴散歩や事業者内の花壇、展示物を見て回り楽しんでいただく対応も実施しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良ければ中庭、玄関外のベンチで外気に触れるよう努めている。近隣の散歩には適時出掛けている。家族の協力による外出も再開していきたいです。	コロナ禍の影響で日常的な散歩が出来にくいのが現状である。対策として日光浴を兼ねて中庭でのティータイムを楽しんでもらったり、ホーム内のディスプレイを季節感溢れる凝ったものを毎月変えて楽しんでもらっている。	コロナが落ち着き、暑さも和らぎ、日常的に散歩ができる様になればいいですね。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全利用者出愛荘による完全管理で行っている。中には個人で自身の財布、小銭程度はあり、手元にあるだけで安心を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人的に携帯電話を持参されている方もいて自ら連絡したり、事業所からはお便りを通じて様子を伝えたり、知人、ご家族からの手紙がきて利用者に渡したり、返事を希望する時は準備している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭を配して採光をよくして、そこに小鳥も来て観賞している。玄関、屋内廊下、リビングなどに日々の写真、リビングから流れる音楽や映像と様々である。季節柄に雛人形、クリスマスツリー等も並べています。	フロアの開口部は大きく、日差し、採光とも十分である。広さも余裕があり、車椅子同士の離合にも余裕がある。どの居室もフロアに面している。畳の間も有り、掘り炬燵が設えられている。トイレ・浴室・玄関等も適度な広さが確保され、季節ごと変えられる壁飾りや置物が利用者を楽しませている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士、リビング⇄居室間の自力移動しやすい生活導線に配慮と様々な理由からテーブル配置、ソファ位置を決めていて、そこから自ずと利用者まかせの雰囲気でも過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前より使い慣れた生活用具、仏壇等も持ち込みをご家族にお願いして自宅に近い雰囲気でも生活していただけるよう努めている。また行事や面会時の写真を飾り楽しんでいただく施しもしています	フロアと中庭を囲んだ、どの居室からも移動がしやすい動線である。各居室には電動ベッドと作り付けのクローゼットがある。スペースに余裕があり、個人の使い慣れた家具等の持ち込みは自由となっている。仏壇を持ち込まれている方も居る	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室前には名札をつけて自分の居室である自覚をされたり、ベッドの高さや位置、物の配置を各個人が安全で使いやすいように考えて、状況に応じてその都度変更も応じている。(立ち上がりや歩行の転倒がないように配慮)		

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	48	役割、楽しみごとの支援 利用者の日々の生活に笑顔や楽しく過ごしてもらいたい	現状生活から更なる充実感を達成し、利用者の日常生活機能の維持、向上にも繋げていく。	新型コロナの影響で出来づらくなっていた外出支援の再開や、定期的なレクリエーション、体操等での関りをもとにして、訪問リハビリステーションのリハビリ師の助言、評価もいただき更なる対応を行っていく。	12ヶ月
2	49	日常的な外出支援	散歩回数を増やす	利用者の身体重度の方達が増えているものの、業務工夫等で散歩回数を増やしていく	12ヶ月
3	35	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に避難所に避難できて、地域との協力体制を築いていても、現実性にはまだ乏しい。	避難所に避難した時の出愛荘の役割分担を見出していきたい。	今年度は地域の方達との対応を協議でき、ある程度の具体性は出てきたが、これが現実的で実効性あるように関わっていく。	12ヶ月
4	35	災害対策関係 感染症と向き合いながらのケア対応(日々の対応、災害時における感染症対応など)	感染症にならないように様々な場面でのケア対応をできるようにしていく。また感染発症後の迅速な必要な対処ができるようにしていく。	災害時における感染症対応もできるように出愛荘独自の感染症対策も実施や、行政、保健所、医療関係者、同業事業所など様々な関係者と協力、連携して感染症予防や発症後の迅速な必要対応に取り組んで行く。	12ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

### 3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		取り組んだ内容	
実施段階		( ↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者へサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="radio"/>	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	①自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/>	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/>	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="radio"/>	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/>	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="radio"/>	④その他( )
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/>	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="radio"/>	④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="radio"/>	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input type="radio"/>	③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input type="radio"/>	④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		<input type="radio"/>	⑤その他( )